

緊急時の連絡先

■医療機関

医療機関名

住所・電話番号

■薬局

薬局名

住所・電話番号

■その他

施設名

住所・電話番号

コセンティクス皮下注150mgペン／皮下注300mgペン／皮下注75mgシリンジを
ご自身で注射される方へ

コセンティクス® 自己注射ガイドブック

患者さんご自身やご家族がコセンティクス皮下注150mgペン、皮下注300mgペン
またはコセンティクス皮下注75mgシリンジを安全に注射するための方法を紹介したものです。

コセンティクスを使用される患者さんへ ホームページのご紹介 www.okusuri.novartis.co.jp/cosentyx

マルホ株式会社 ノバルティス ファーマ株式会社

CTX00116GK0004
2024年10月作成
A1116DX-MDS

監修 五十嵐 敦之 先生
医療法人桜仁会 いがらし皮膚科東五反田 院長

はじめに

このガイドブックは、患者さんご自身やご家族が「コセンティクス皮下注150mgペン」、「コセンティクス皮下注300mgペン」または「コセンティクス皮下注75mgシリンジ」を安全に注射していただくための方法を紹介したものです。

「コセンティクス皮下注150mgペン」、「コセンティクス皮下注300mgペン」および「コセンティクス皮下注75mgシリンジ」は主治医から十分な説明を受けた後、主治医の判断に従い、正しくご使用ください。



自己注射にあたっての注意

- 自己注射を行う場合、十分な体調管理が大切です。かぜ症状(のどの痛み、さむけ、熱、せきなど)や体調の変化がみられたときは、すぐに主治医または医療機関までご連絡ください。
- 自己注射を行う場合も、必ず定期的に主治医の診察を受けてください。
- うまく自己注射ができない場合や分からないことがあるときは、主治医または医療機関までご相談ください。
- 一度自己注射を始めてから、希望があれば通院での治療に変えることも可能です。その場合は主治医にご相談ください。

目次

150mgペン

医療機関で受け取るもの	P4
ペンの保管の仕方	P5
スケジュール	P6
注射の準備	P7
注射する部位	P9
注射の仕方(上腕部への注射)	P10
注射の仕方(腹部への注射)	P13
注射の仕方(大腿部への注射)	P16
ペンの廃棄	P19
注射後の症状や体調について	P20
自己注射用手帳への記録	P21

300mgペン

医療機関で受け取るもの	P22
ペンの保管の仕方	P23
スケジュール	P24
注射の準備	P25
注射する部位	P27
注射の仕方(上腕部への注射)	P28

注射の仕方(腹部への注射)	P31
注射の仕方(大腿部への注射)	P34
ペンの廃棄	P37
注射後の症状や体調について	P38
自己注射用手帳への記録	P39

75mgシリンジ

医療機関で受け取るもの	P40
シリンジの保管の仕方	P41
スケジュール	P42
注射の準備	P43
注射する部位	P45
注射の仕方	P46
シリンジの廃棄	P49
注射後の症状や体調について	P50
自己注射用手帳への記録	P51

Q & A

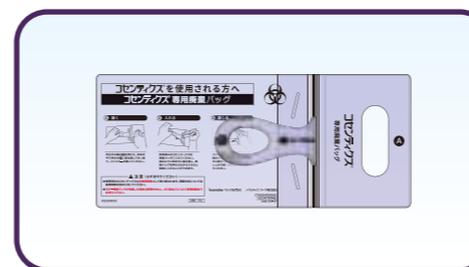
よくあるご質問	P52
---------	-----

医療機関で受け取るもの

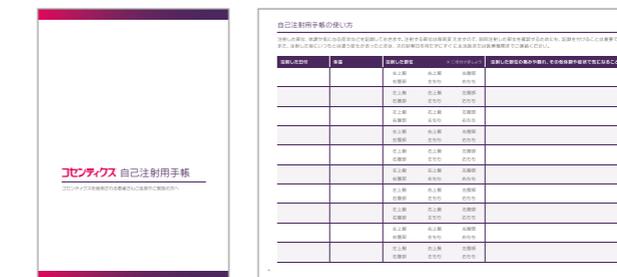
1 注射器：コセンティクス皮下注150mgペン



4 使用済み注射器入れ (廃棄バッグ)



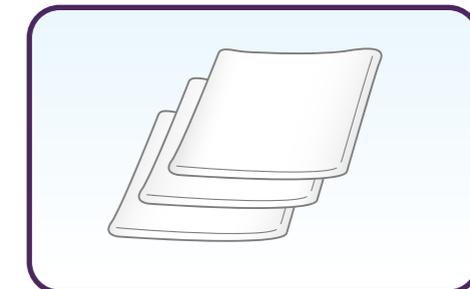
5 コセンティクス自己注射用手帳



2 準備マット



3 アルコール消毒綿



※1本注射の場合は3枚、2本注射の場合は5枚用意してください。(1枚は準備マットの消毒に使用します)

⚠ 注意

● 外箱内に同封されている取扱説明書に注射時の注意事項が記載されていますので、必ずご確認ください。

ペンの保管の仕方

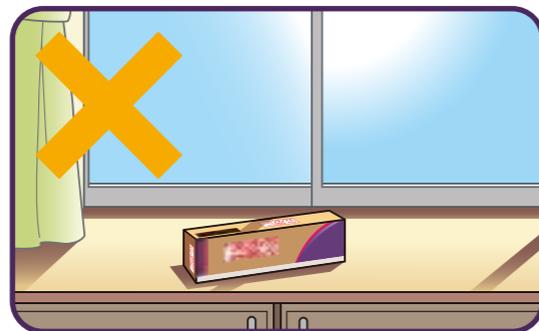
- 医療機関で受け取ったコセンティクスは、自己注射をするときまで**冷蔵庫***で保管してください。*2~8℃で保管し、凍らせないようにしてください。本剤は遮光が必要なため、外箱のまま、または外箱から出す場合は遮光して保管してください。



- 薬液が凍結するのを避けるため、チルド室、野菜室、冷気の吹き出し口付近には保管しないでください。



- 冷凍庫には入れないでください。



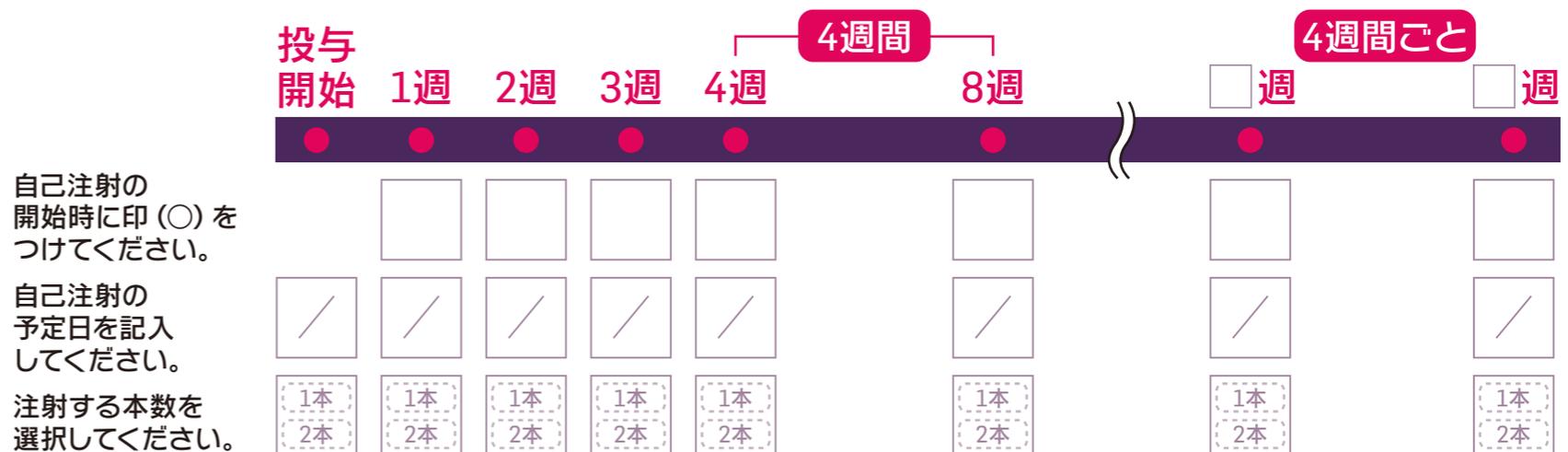
- 直射日光の当たるところに放置しないでください。



- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

スケジュール

コセンティクスの投与スケジュールは、初回、1週後、2週後、3週後、4週後に投与し、その後は4週間ごとに投与を続けていきます。



- 初回の投与は医療機関で行います。
- 初めての自己注射は、最初の注射から数えて何回目の注射なのか、主治医とご確認ください。
※5回目以降は、4週間ごとの投与になります。
- 患者さんによって注射の本数が異なりますので主治医にご確認ください。
※2本注射する患者さんと、1本注射する患者さんがいます。
- 体調がすぐれないときは無理に注射せず、主治医にご連絡ください。
※自己注射を始める前に、体調不良時の対処法・連絡方法など主治医と事前に相談しておきましょう。

※スケジュールと体調管理にあたっては、「自己注射用手帳」もご活用ください。



注射の準備

① 外箱を冷蔵庫から出します。



● 注射する15～30分前に、300mgを注射する場合は2本(2箱)、150mgを注射する場合は1本(1箱)を冷蔵庫から取り出し、外箱に入れたまま、もしくは遮光した状態で室温に戻します。

② 場所を確保します。



● 明るく、平らな場所を選んで清潔にしてください。

③ 手を洗い、準備マットを消毒します。



● せっけんを使って手を丁寧に洗い、準備マットをアルコール消毒綿で消毒します。

⚠ 注意

ペンを冷蔵庫から出した後は、次の点にご注意ください。

- 電子レンジで温めたり、湯せんしたりしないでください。
- 振らないでください。
- 長時間放置しないでください。
- 直射日光の当たるところに放置しないでください。
- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

注射の準備

④ アルコール消毒綿で消毒した準備マットの上に注射に必要なものを並べます。



準備マットを置き、次のものを準備します。

- ペン(投与する本数に応じて、1本または2本)
- アルコール消毒綿(1本注射の場合:2枚、2本注射の場合:4枚)
- 使用済み注射器入れ(廃棄バッグ)

⚠ 注意

ペンの取り扱いは、次の点に注意してください。

- キャップを外さないでください。

次の場合は、使用せずに主治医または医療機関にご連絡ください。

- ペンの使用期限が過ぎている場合。
- 薬液が正常な色(透明か、薄い黄色)と違う場合。(使用期限は外箱・ペんに記載あり)
- 薬液に異物(粒や塊など)が混ざっている場合。
- ペンが破損している場合。

⑤ ペンと薬液を確認します。



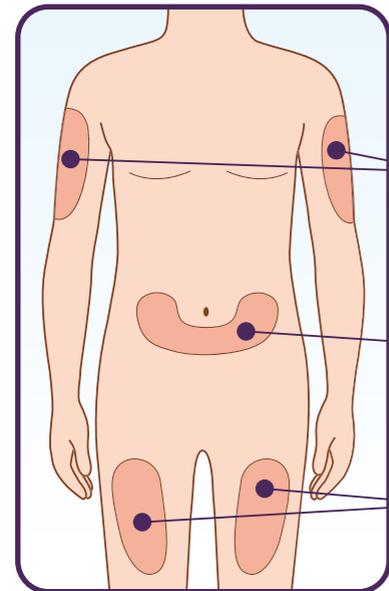
次の点を確認してください。

- ペンの使用期限が過ぎていない
- ペンが破損していない
- 薬液は変色していない(正常な色は透明か、薄い黄色)
- 薬液に異物が混ざっていない(気泡が見える場合がありますが問題はありません)
- 使用済みのペンではない(再使用しないでください)

注射する部位

- 注射する部位は、主治医または医療機関の指示に従ってください。

注射する部位は次の3つです。



上腕部の外側

※ご家族の方が注射される場合は上腕部の外側に注射することもできます。ただし、ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

腹部

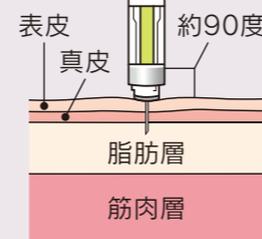
※へその周り5cmは避けてください。

大腿部(太もも)

※鼠径部や膝に近い部位、大腿部の外側、内側を避けてください。
※大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方は、この投与方法は推奨できません。

皮下注射とは？

皮膚の下にある脂肪層に注射します。たるみがあって柔らかい部位を選ぶと比較的注射がしやすくなります。



注意

- 「上腕部の外側」の場合、皮下脂肪が少ない場合は、他の部位への投与を検討してください。
- 注射する部位は毎回変更してください。(前回注射した部位から3cm以上離れた部位に注射してください)
※1回の投与で2本を注射する場合もできる限り部位を変えて投与してください。
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷跡がある部位、硬くなっている部位には注射しないでください。
- 「自己注射用手帳」に注射日と注射した部位を必ず記録してください。

注射の仕方 上腕部への注射

※ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

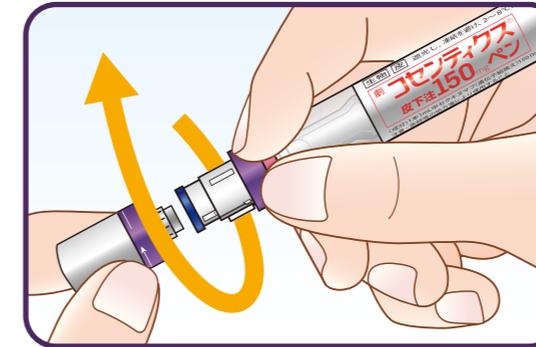
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。皮下脂肪が少ない方は、他の部位への投与を検討してください。

1 消毒します。



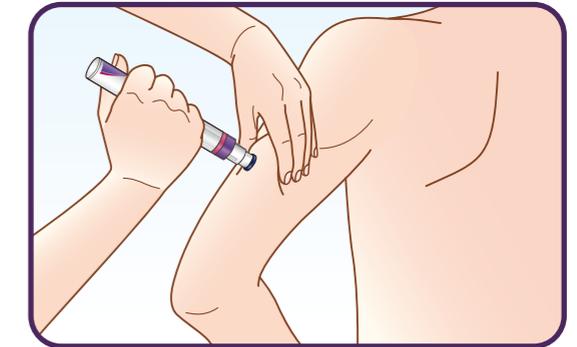
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

2 キャップを外します。



- キャップを矢印の方向にひねって外してください。

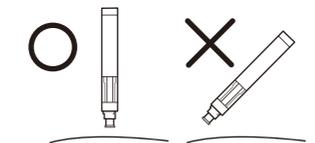
3 ペンを注射部位に当てます。



- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。

注意

- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- キャップを外したら、針ガードには触れずにすぐに注射を行ってください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 注射針部分のカバーには乾燥天然ゴム(ラテックス)が含まれているため、ラテックスに過敏な方はご注意ください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。

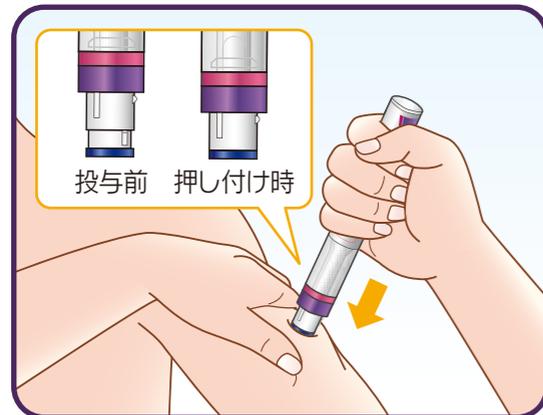


注射の仕方

上腕部への注射

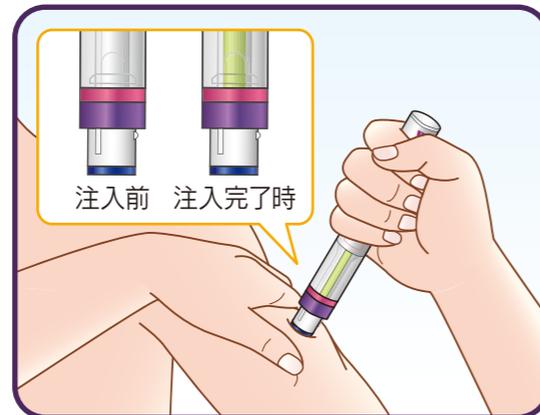
※ご自身で注射される場合は
この部位は避けてください。

4 針ガードを最後まで押し込める
ようにペンを押し付けます。



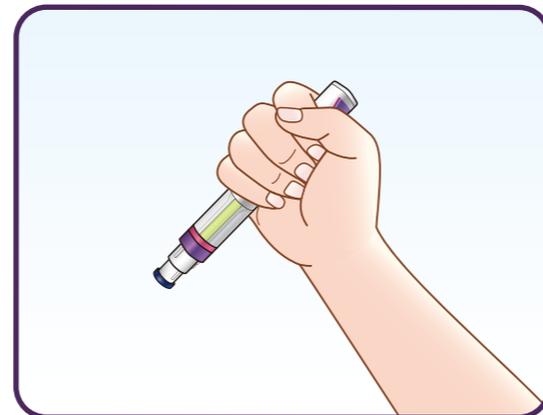
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 必要であれば、皮膚をつまんで注射部位を固定します。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチツという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは皮膚に押し付けたままにしてください。

5 ペンを押し付けたままに
します。



- 薬液確認窓から見える黄緑色のインディケーターの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチツという音がします。
- 黄緑色のインディケーターの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

6 ペンを離します。



- 黄緑色のインディケーターの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

注射の仕方

上腕部への注射

※ご自身で注射される場合は
この部位は避けてください。

7 新しいアルコール消毒綿で
おさえます。



- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

2本注射する場合は
①～⑦までの作業を
くりかえしてください。
(1回目に注射した部位から
3cm以上離れた部位に注射
してください)

⚠ 注意

- 黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。
- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

注射の仕方

腹部への注射

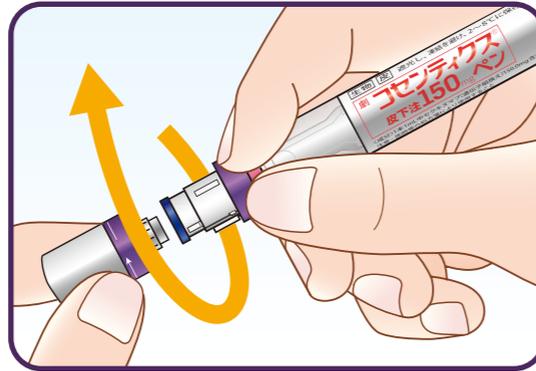
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

① 消毒します。



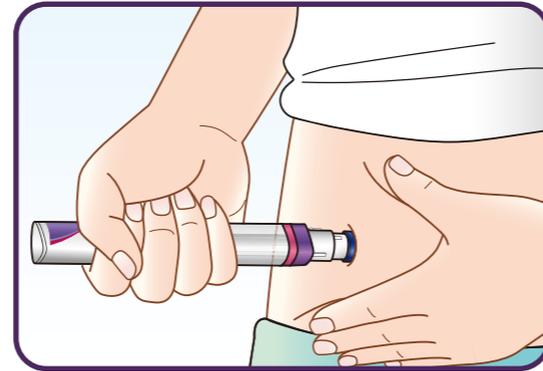
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

② キャップを外します。

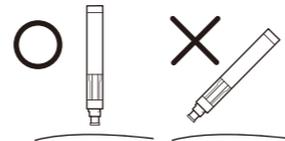


- キャップを矢印の方向にひねって外してください。

③ ペンを注射部位に当てます。



- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。
- へその周り5cmは避けてください。



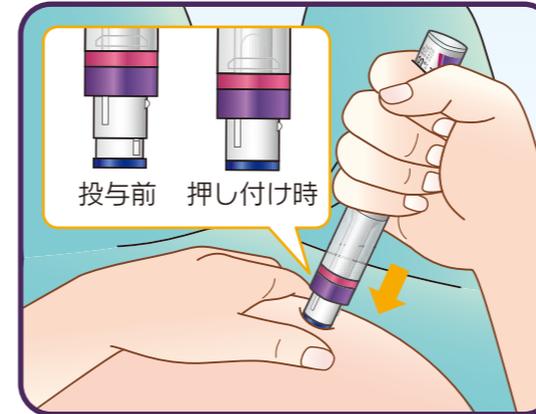
⚠ 注意

- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- キャップを外したら、針ガードには触れずにすぐに注射を行ってください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 注射針部分のカバーには乾燥天然ゴム(ラテックス)が含まれているため、ラテックスに過敏な方はご注意ください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。

注射の仕方

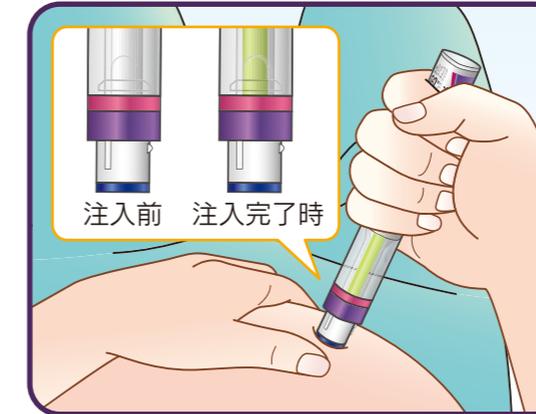
腹部への注射

④ 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。



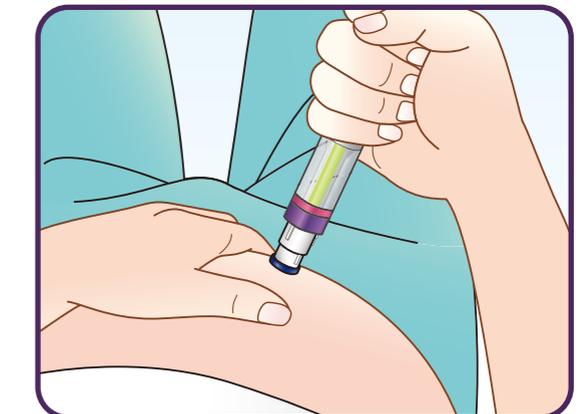
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 必要であれば、皮膚をつまんで注射部位を固定します。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチツという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは皮膚に押し付けたままにしてください。

⑤ ペンを押し付けたままにします。



- 薬液確認窓から見える黄緑色のインディケーターの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチツという音がします。
- 黄緑色のインディケーターの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

⑥ ペンを離します。

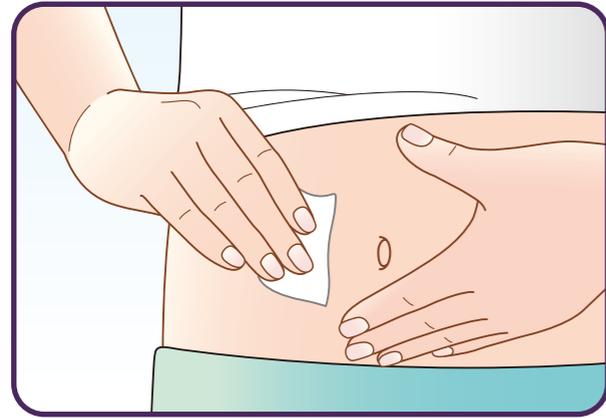


- 黄緑色のインディケーターの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

注射の仕方

腹部への注射

- 7 新しいアルコール消毒綿でおさえます。



2本注射する場合は
①～⑦までの作業を
くりかえしてください。
(1回目に注射した部位から
3cm以上離れた部位に注射
してください)

- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

⚠ 注意

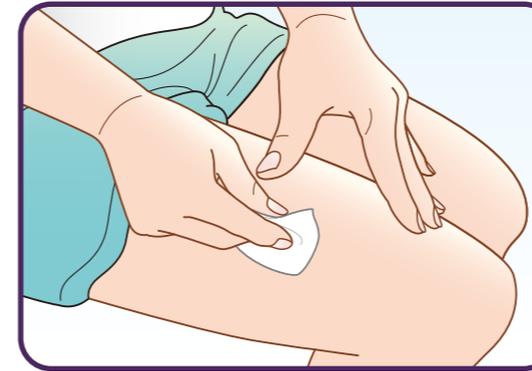
- 黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。
- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

注射の仕方

大腿部への注射

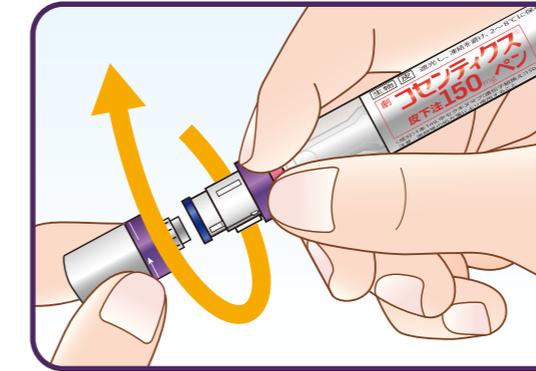
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

- 1 消毒します。



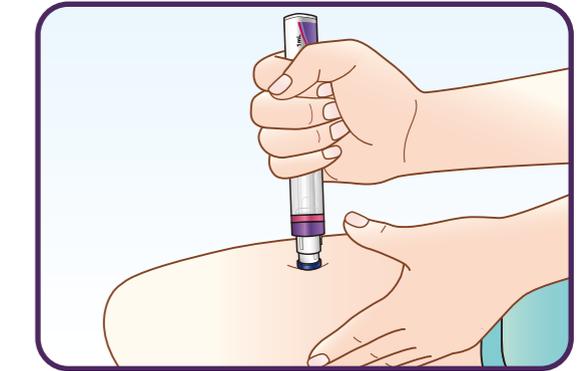
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

- 2 キャップを外します。



- キャップを矢印の方向にひねって外してください。

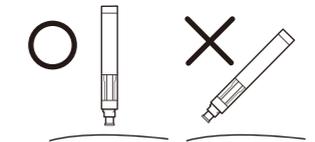
- 3 ペンを注射部位に当てます。



- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。

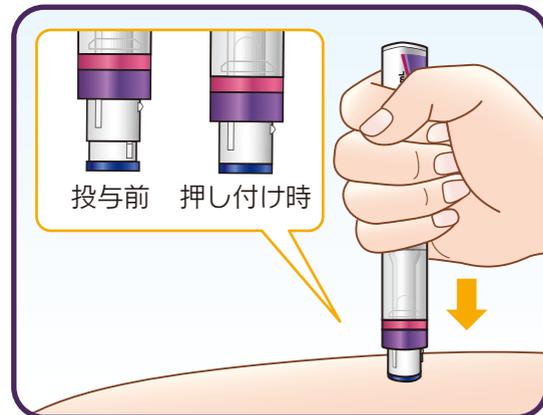
⚠ 注意

- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- キャップを外したら、針ガードには触れずにすぐに注射を行ってください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 注射針部分のカバーには乾燥天然ゴム(ラテックス)が含まれているため、ラテックスに過敏な方はご注意ください。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。



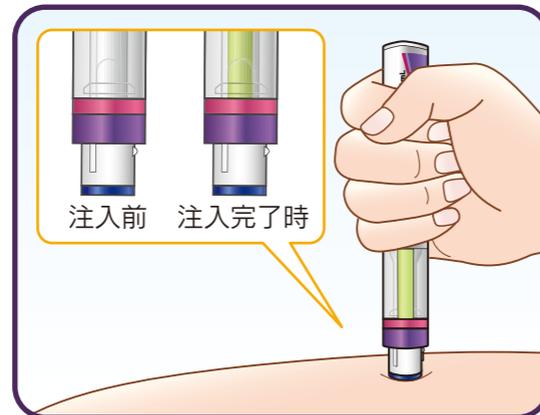
注射の仕方 大腿部への注射

- ④ 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。



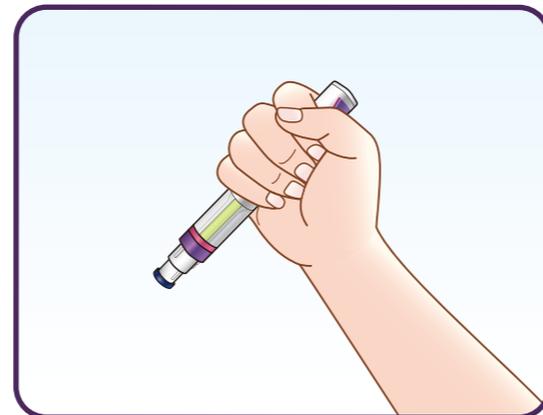
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 必要であれば、皮膚をつまんで注射部位を固定します。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチツという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは皮膚に押し付けたままにしてください。

- ⑤ ペンを押し付けたままにします。



- 薬液確認窓から見える黄緑色のインディケーターの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチツという音がします。
- 黄緑色のインディケーターの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

- ⑥ ペンを離します。



- 黄緑色のインディケーターの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

注射の仕方 大腿部への注射

- ⑦ 新しいアルコール消毒綿でおさえます。



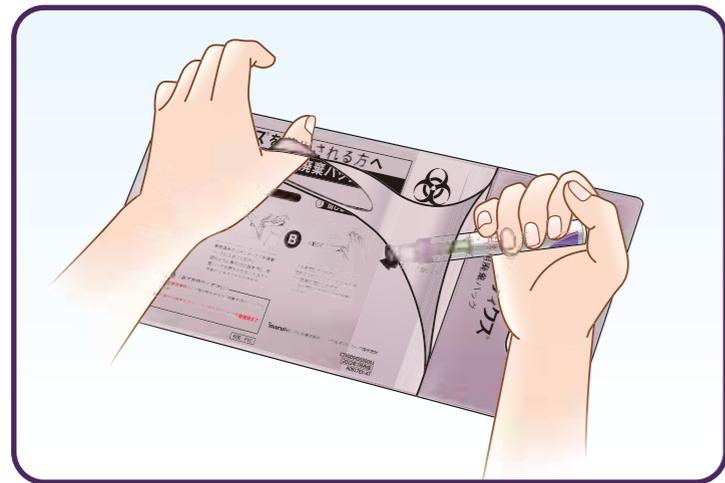
- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

2本注射する場合は
①～⑦までの作業を
くりかえしてください。
(1回目に注射した部位から
3cm以上離れた部位に注射
してください)

⚠ 注意

- 黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。
- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

ペンの廃棄



- 使用済みのペンを収納してください。

⚠ 注意

- 使用済みのペンは、速やかに廃棄バッグに収納してください。廃棄バッグがない場合はビンや缶などの固い容器（例えばインスタントコーヒーのガラスビン）などでも代用できます。
- 使用済みのペンとペンのキャップは医療廃棄物として取り扱われます。廃棄の方法については医療機関の指示に従ってください。
- 使用済みのペンは再使用しないでください。
- アルコール消毒綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄バッグは、子ども手の届かないところに保管してください。

注射後の症状や体調について

- 注射した後に、いつもとは違う変化を感じたときは、すぐに主治医または医療機関までご連絡ください。

- 風邪っぽい症状(咳、鼻水、のどの痛み、さむけ、熱、頭痛など)が続いている
- アレルギー症状(じんましん、かゆみ、皮膚や粘膜の腫れ、むくみなど)がある
- 息苦しさがある
- どうきがする
- からだがだるい
- 腹痛、下痢
- 便に粘液や血液が混じる
- 体重が減った、食欲がない
- 肛門が痛い、肛門から膿が出る
- ほぼ全身の皮膚が赤くなる
- フケやかさぶたのようなものができて、それがはがれ落ちる



自己注射用手帳への記録

- 注射が終わったら、「自己注射用手帳」に注射をした日付とそのときの様子を記入しましょう。
- 「自己注射用手帳」は主治医または医療機関にとっても必要になることもありますので、診察時にお持ちください。

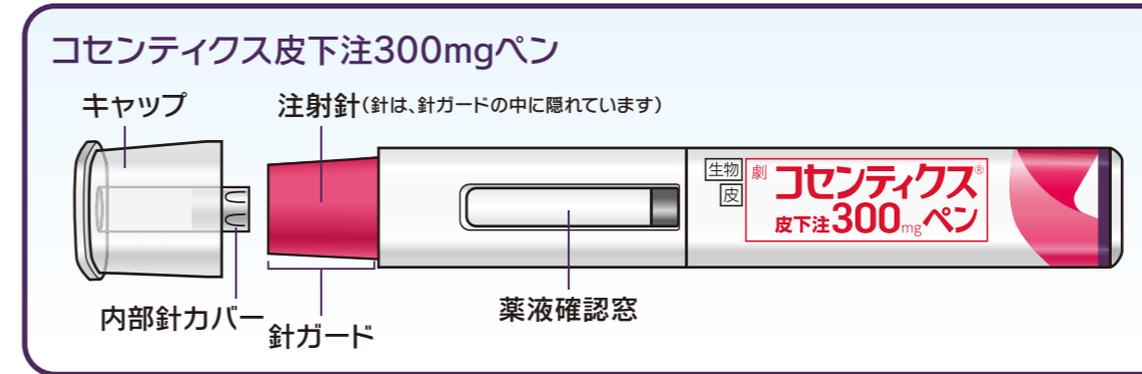


「自己注射用手帳」には、次の項目を記入してください。

- 注射した日付
- 体温
- 注射した部位
- 注射した部位の痛みや腫れ
- その他の症状

医療機関で受け取るもの

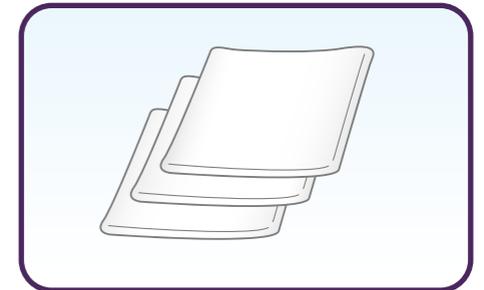
1 注射器：コセンティクス皮下注300mgペン



2 準備マット

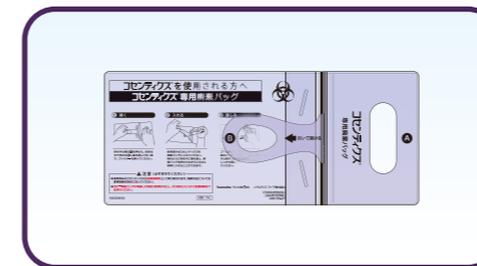


3 アルコール消毒綿

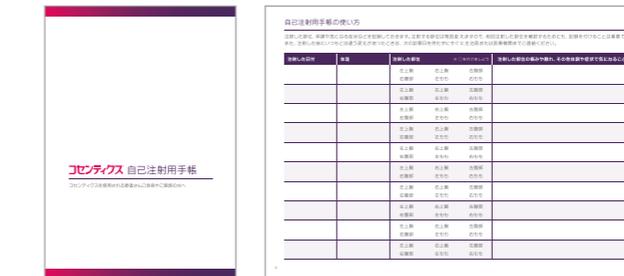


※3枚用意してください。(1枚は準備マットの消毒に使用します)

4 使用済み注射器入れ (廃棄バッグ)



5 コセンティクス自己注射用手帳



⚠ 注意

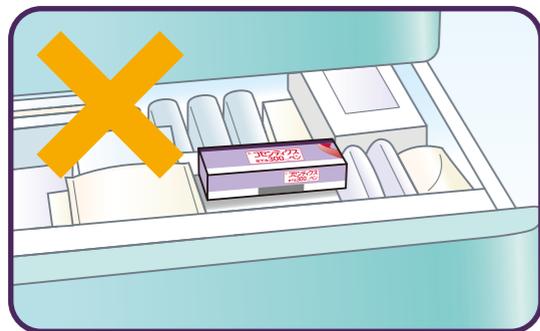
- 外箱内に同封されている取扱説明書に注射時の注意事項が記載されていますので、必ずご確認ください。
- 針が内部に入っているため、赤色の針ガードを触らないでください。

ペンの保管の仕方

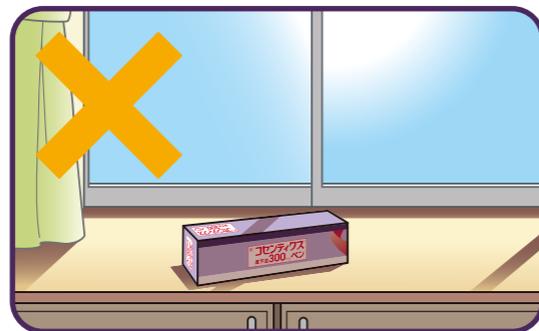
- 医療機関で受け取ったコセンティクスは、自己注射をするときまで**冷蔵庫***で保管してください。*2~8℃で保管し、凍らせないようにしてください。本剤は遮光が必要なため、外箱のまま、または外箱から出す場合は遮光して保管してください。



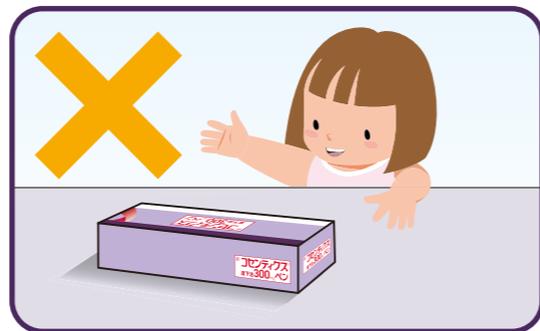
- 薬液が凍結するのを避けるため、チルド室、野菜室、冷気の吹き出し口付近には保管しないでください。



- 冷凍庫には入れないでください。



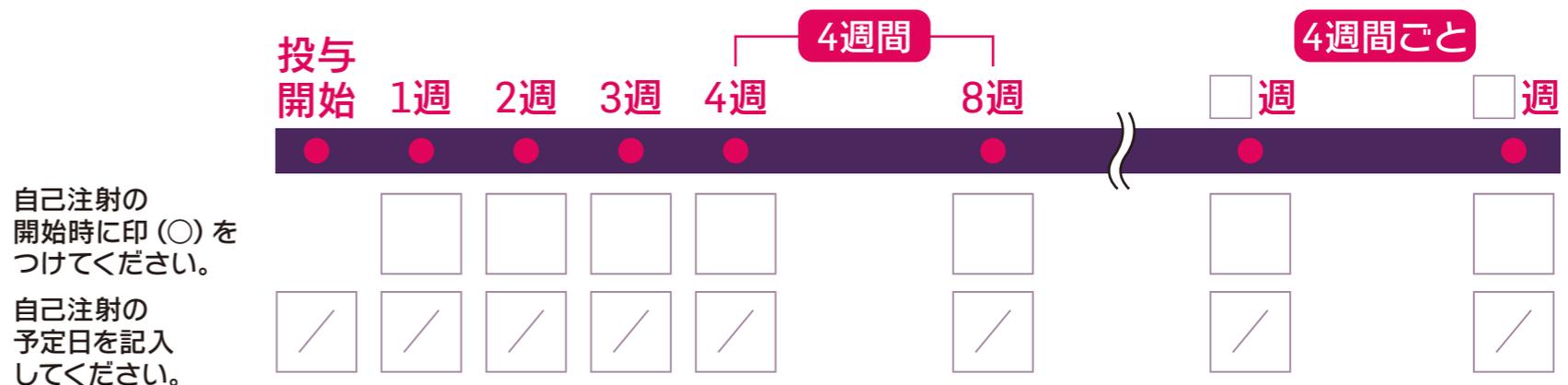
- 直射日光の当たるところに放置しないでください。



- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

スケジュール

コセンティクスの投与スケジュールは、初回、1週後、2週後、3週後、4週後に投与し、その後は4週間ごとに投与を続けていきます。



- 初回の投与は医療機関で行います。
- 初めての自己注射は、最初の注射から数えて何回目の注射なのか、主治医とご確認ください。
※5回目以降は、4週間ごとの投与になります。
- 体調がすぐれないときは無理に注射せず、主治医にご連絡ください。
※自己注射を始める前に、体調不良時の対処法・連絡方法など主治医と事前に相談しておきましょう。



※スケジュールと体調管理にあたっては、「自己注射用手帳」もご活用ください。

注射の準備

① 外箱を冷蔵庫から出します。



- 注射する30～45分前に冷蔵庫から取り出し、外箱に入れたまま、もしくは遮光した状態で室温に戻します。

② 場所を確保します。



- 明るく、平らな場所を選んで清潔にしてください。

③ 手を洗い、準備マットを消毒します。



- せっけんを使って手を丁寧に洗い、準備マットをアルコール消毒綿で消毒します。

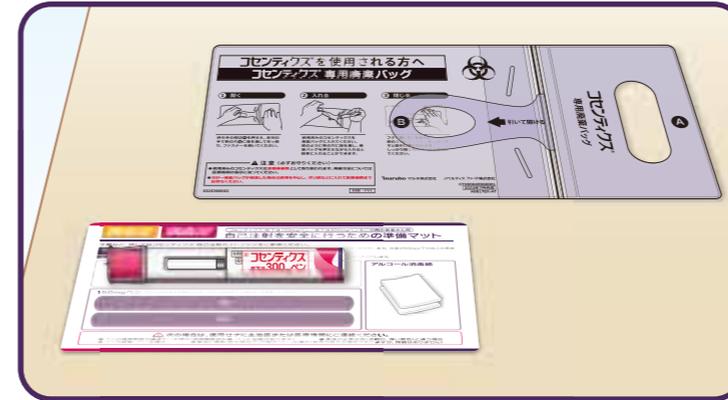
⚠ 注意

ペンを冷蔵庫から出した後は、次の点にご注意ください。

- 電子レンジで温めたり、湯せんしたりしないでください。
- 振らないでください。
- 長時間放置しないでください。
- 直射日光の当たるところに放置しないでください。
- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

注射の準備

④ アルコール消毒綿で消毒した準備マットの上に注射に必要なものを並べます。



準備マットを置き、次のものを準備します。

- ペン(1本)
- アルコール消毒綿(2枚)
- 使用済み注射器入れ(廃棄バッグ)

⚠ 注意

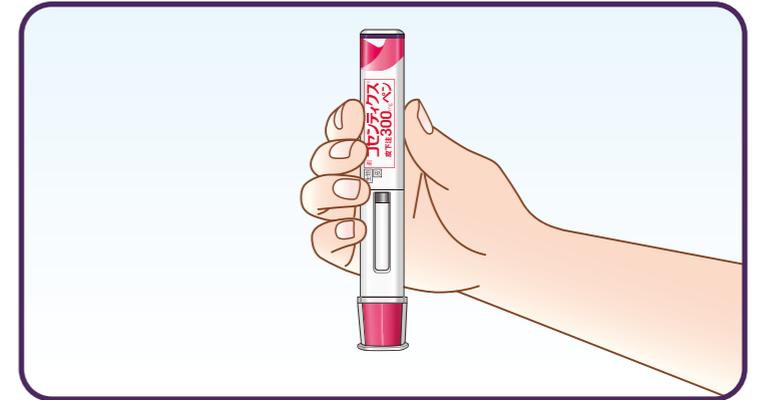
ペンの取り扱いは、次の点に注意してください。

- キャップを外さないでください。

次の場合は、使用せずに主治医または医療機関にご連絡ください。

- ペンの使用期限が過ぎている場合。
- 薬液が正常な色(透明か、薄い黄色)と違う場合。(使用期限は外箱・ペンに記載あり)
- 薬液に異物(粒や塊など)が混ざっている場合。
- ペンが破損している場合。

⑤ ペンと薬液を確認します。



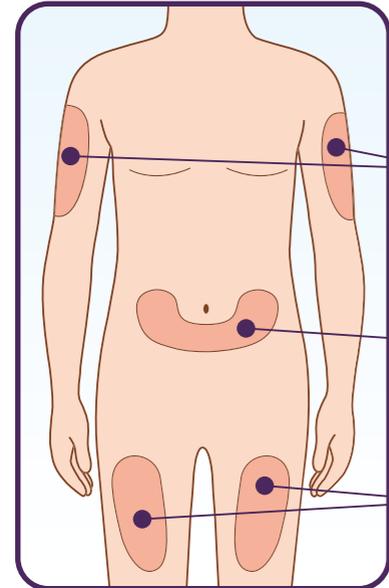
次の点を確認してください。

- ペンの使用期限が過ぎていない
- ペンが破損していない
- 薬液は変色していない(正常な色は透明か、薄い黄色)
- 薬液に異物が混ざっていない(気泡が見える場合がありますが問題はありません)
- 使用済みのペンではない(再使用しないでください)

注射する部位

- 注射する部位は、主治医または医療機関の指示に従ってください。

注射する部位は次の3つです。



上腕部の外側

※ご家族の方が注射される場合は上腕部の外側に注射することもできます。ただし、ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

腹部

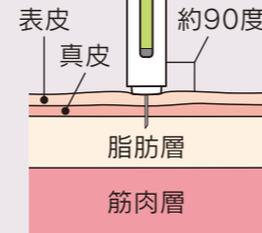
※へその周り5cmは避けてください。

大腿部(太もも)

※鼠径部や膝に近い部位、大腿部の外側、内側を避けてください。
※大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方は、この投与方法は推奨できません。

皮下注射とは？

皮膚の下にある脂肪層に注射します。たるみがあって柔らかい部位を選ぶと比較的注射がしやすくなります。



⚠ 注意

- 「上腕部の外側」の場合、皮下脂肪が少ない場合は、他の部位への投与を検討してください。
- 注射する部位は毎回変更してください。(前回注射した部位から3cm以上離れた部位に注射してください)
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷跡がある部位、硬くなっている部位には注射しないでください。
- 「自己注射用手帳」に注射日と注射した部位を必ず記録してください。

注射の仕方 上腕部への注射

※ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

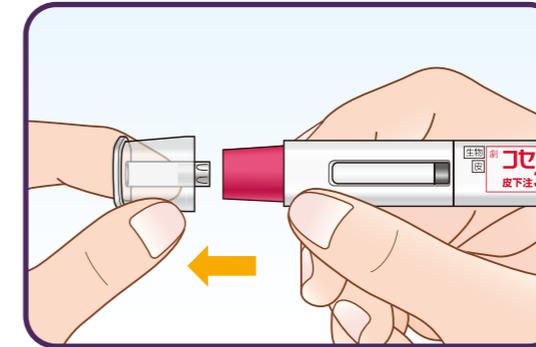
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。皮下脂肪が少ない方は、他の部位への投与を検討してください。

① 消毒します。



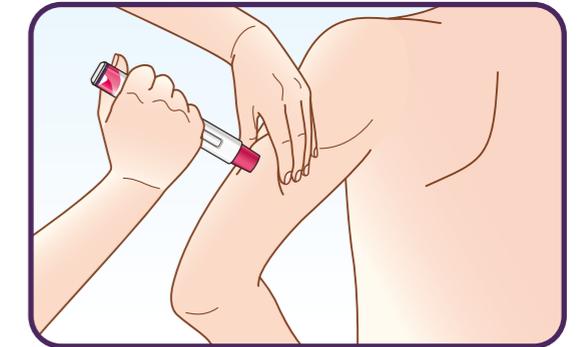
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

② キャップを外します。



- キャップをまっすぐ引き抜いてください。

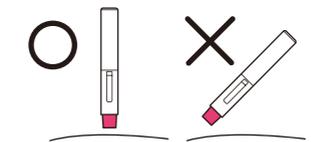
③ ペンを注射部位に当てます。



- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。

⚠ 注意

- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- 針が内部に入っているため、キャップを外したら、赤色の針ガードには触れずにすぐに注射を行ってください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。

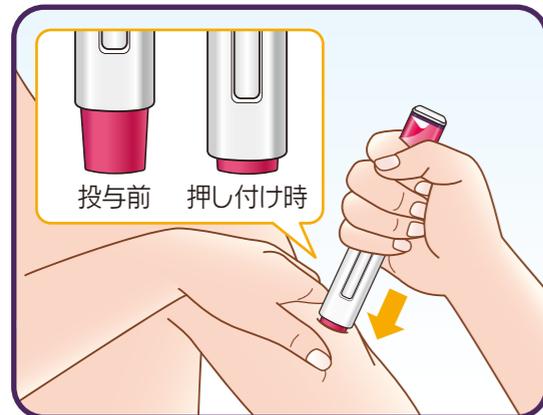


注射の仕方

上腕部への注射

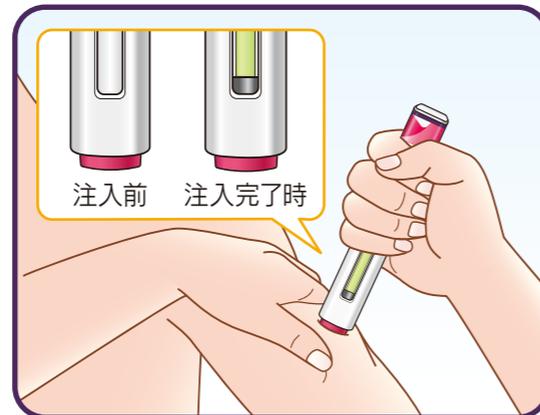
※ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

- 4 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。



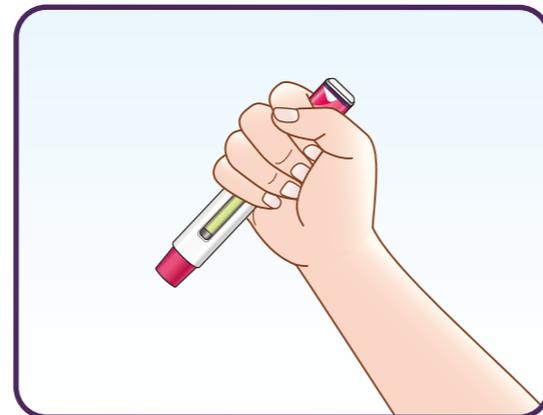
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 必要であれば、皮膚をつまんで注射部位を固定します。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチツという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは赤色の針ガードをしっかり押し付け、そのまま動かさないでください。

- 5 ペンを押し付けたままにします。



- 薬液確認窓から見える先端が灰色で黄緑色のインディケーターの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチツという音がします。
- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

- 6 ペンを離します。



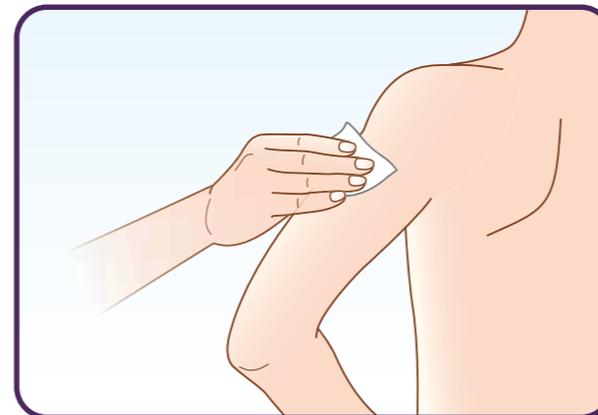
- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

注射の仕方

上腕部への注射

※ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

- 7 新しいアルコール消毒綿でおさえます。



- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

⚠ 注意

- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。
- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

注射の仕方

腹部への注射

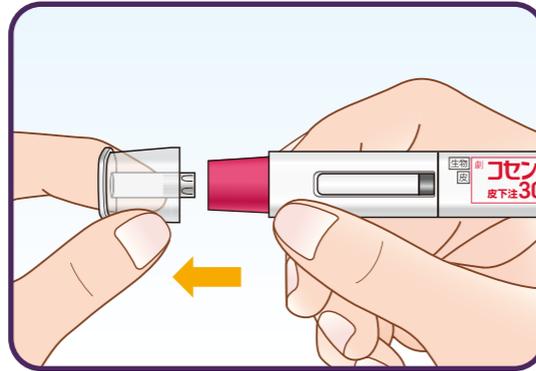
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

① 消毒します。



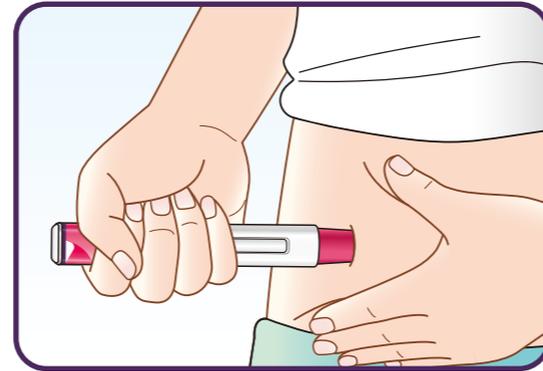
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

② キャップを外します。



- キャップをまっすぐ引き抜いてください。

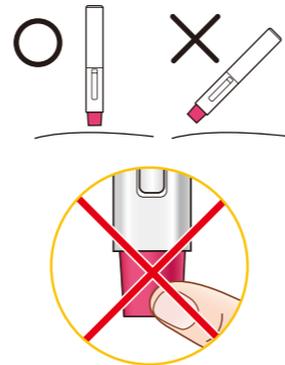
③ ペンを注射部位に当てます。



- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。
- へその周り5cmは避けてください。

⚠ 注意

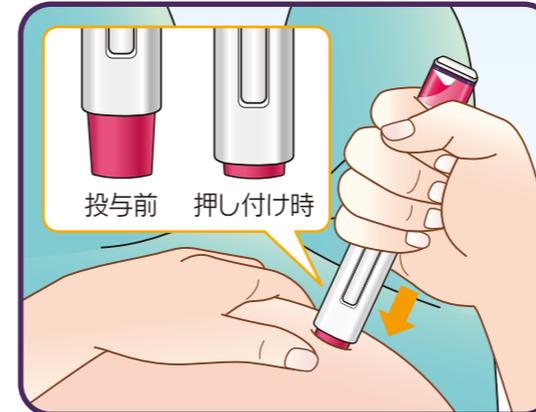
- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- 針が内部に入っているため、キャップを外したら、赤色の針ガードには触れずすぐに注射を行ってください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。



注射の仕方

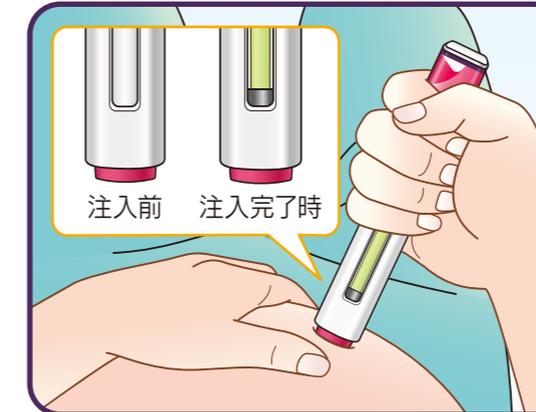
腹部への注射

④ 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。



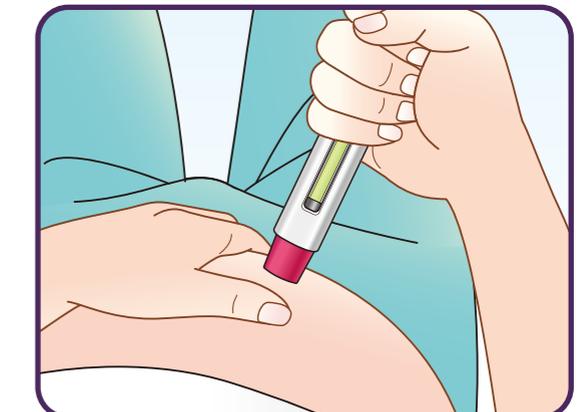
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 必要であれば、皮膚をつまんで注射部位を固定します。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチツという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは赤色の針ガードをしっかり押し付け、そのまま動かさないでください。

⑤ ペンを押し付けたままにします。



- 薬液確認窓から見える先端が灰色で黄緑色のインディケータの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチツという音がします。
- 先端が灰色で黄緑色のインディケータの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

⑥ ペンを離します。

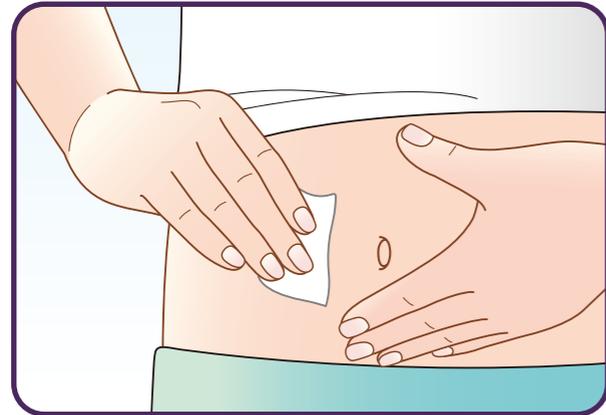


- 先端が灰色で黄緑色のインディケータの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 先端が灰色で黄緑色のインディケータが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

注射の仕方

腹部への注射

- 7 新しいアルコール消毒綿でおさえます。



- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

⚠ 注意

- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。
- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

注射の仕方

大腿部への注射

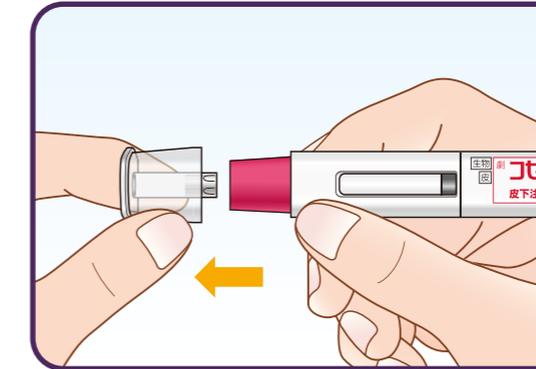
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

- 1 消毒します。



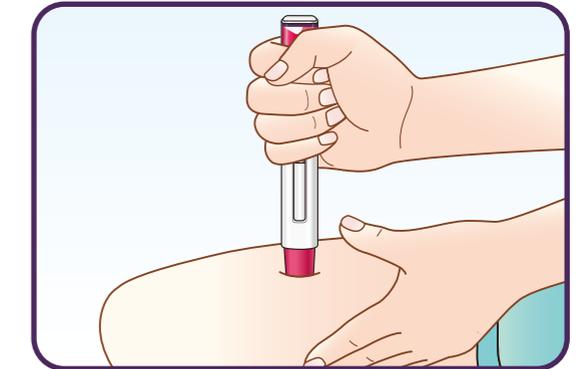
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

- 2 キャップを外します。



- キャップをまっすぐ引き抜いてください。

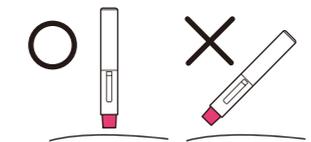
- 3 ペンを注射部位に当てます。



- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。

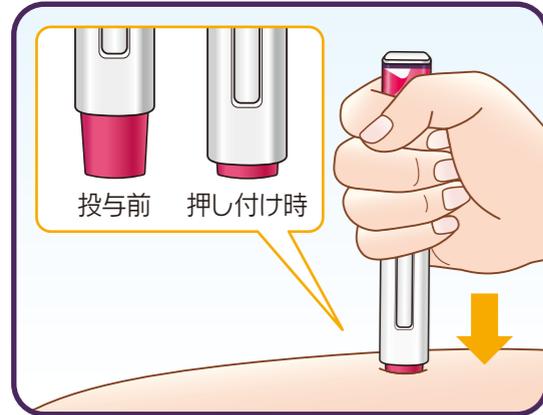
⚠ 注意

- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- 針が内部に入っているため、キャップを外したら、赤色の針ガードには触れずにすぐに注射を行ってください。
- キャップを外したまま放置しないでください。薬液が固まるおそれがあります。
- 注射針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。



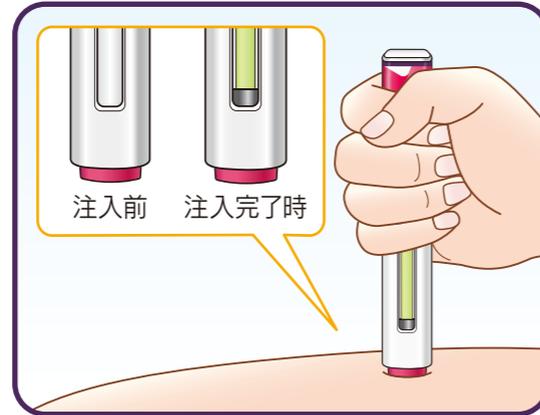
注射の仕方 大腿部への注射

- 4 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。



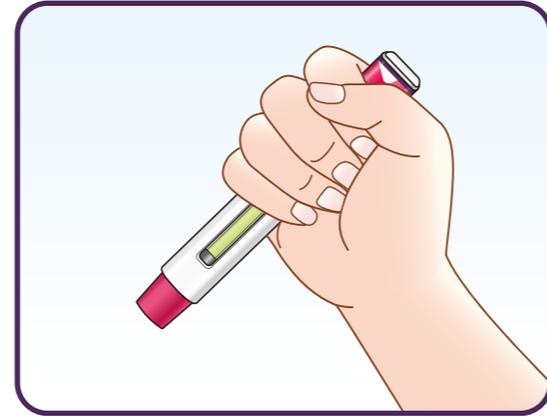
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 必要であれば、皮膚をつまんで注射部位を固定します。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチツという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは赤色の針ガードをしっかり押し付け、そのまま動かさないでください。

- 5 ペンを押し付けたままにします。



- 薬液確認窓から見える先端が灰色で黄緑色のインディケーターの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチツという音がします。
- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

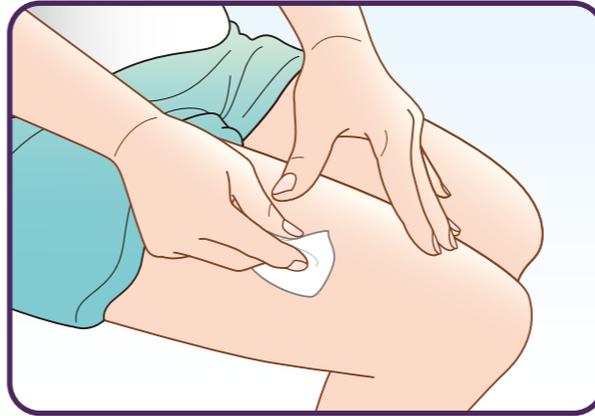
- 6 ペンを離します。



- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

注射の仕方 大腿部への注射

- 7 新しいアルコール消毒綿でおさえます。

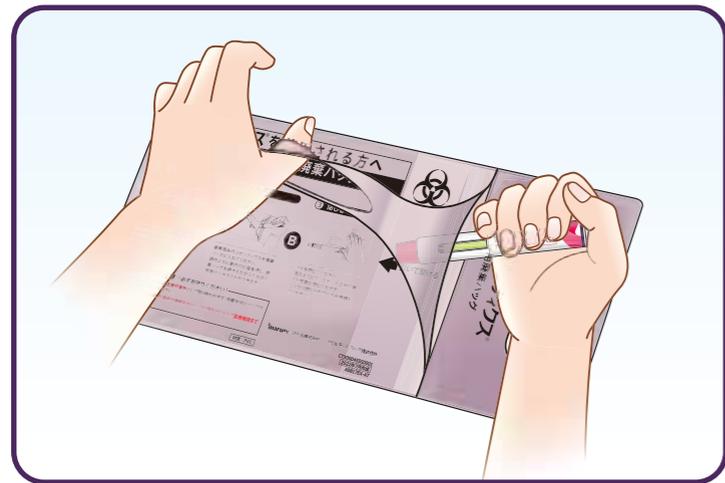


- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

⚠ 注意

- 先端が灰色で黄緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。
- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

ペンの廃棄



- 使用済みのペンを収納してください。

⚠ 注意

- 使用済みのペンは、速やかに廃棄バッグに収納してください。廃棄バッグがない場合はビンや缶などの固い容器（例えばインスタントコーヒーのガラスビン）などでも代用できます。
- 使用済みのペンとペンのキャップは医療廃棄物として取り扱われます。廃棄の方法については医療機関の指示に従ってください。
- 使用済みのペンは再使用しないでください。
- アルコール消毒綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄バッグは、子ども手の届かないところに保管してください。

注射後の症状や体調について

- 注射した後に、いつもとは違う変化を感じたときは、すぐに主治医または医療機関までご連絡ください。

- 風邪っぽい症状(咳、鼻水、のどの痛み、さむけ、熱、頭痛など)が続いている
- アレルギー症状(じんましん、かゆみ、皮膚や粘膜の腫れ、むくみなど)がある
- 息苦しさがある
- どうきがする
- からだがだるい
- 腹痛、下痢
- 便に粘液や血液が混じる
- 体重が減った、食欲がない
- 肛門が痛い、肛門から膿が出る
- ほぼ全身の皮膚が赤くなる
- フケやかさぶたのようなものができて、それがはがれ落ちる



自己注射用手帳への記録

- 注射が終わったら、「自己注射用手帳」に注射をした日付とそのときの様子を記入しましょう。
- 「自己注射用手帳」は主治医または医療機関にとっても必要になることもありますので、診察時にお持ちください。

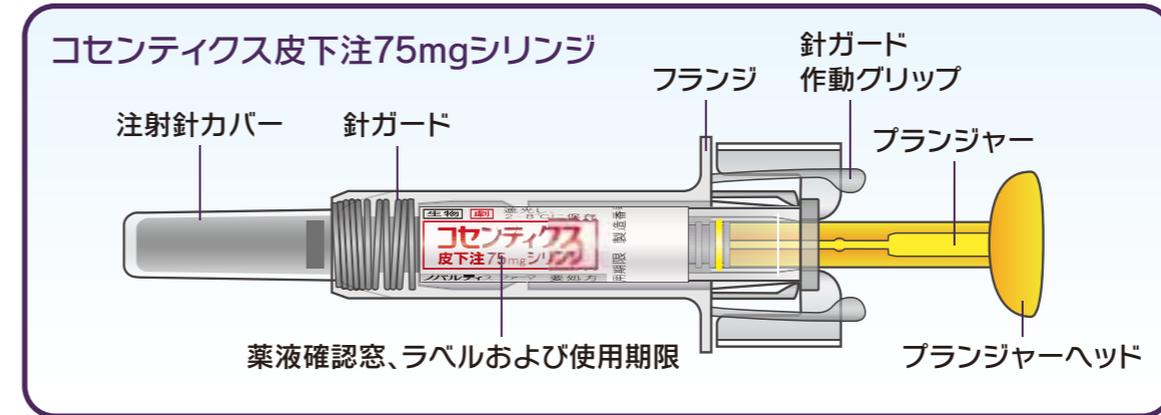


「自己注射用手帳」には、次の項目を記入してください。

- 注射した日付
- 体温
- 注射した部位
- 注射した部位の痛みや腫れ
- その他の症状

医療機関で受け取るもの

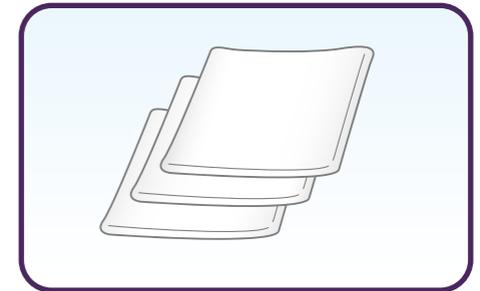
1 注射器：コセンティクス皮下注75mgシリンジ



2 準備マット

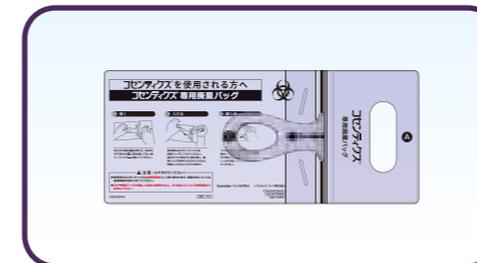


3 アルコール消毒綿



※3枚用意してください。(1枚は準備マットの消毒に使用します)

4 使用済み注射器入れ (廃棄バッグ)



5 コセンティクス自己注射用手帳



⚠ 注意

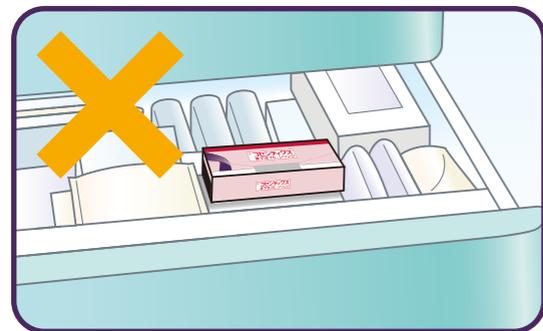
● 外箱内に同封されている取扱説明書に注射時の注意事項が記載されていますので、必ずご確認ください。

シリンジの保管の仕方

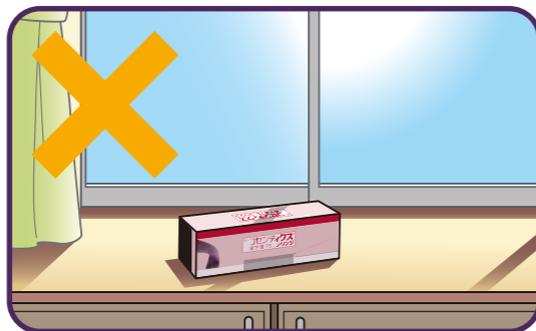
- 医療機関で受け取ったコセンティクスは、自己注射をするときまで**冷蔵庫***で保管してください。*2~8℃で保管し、凍らせないようにしてください。本剤は遮光が必要なため、外箱のまま、または外箱から出す場合は遮光して保管してください。



- 薬液が凍結するのを避けるため、チルド室、野菜室、冷気の吹き出し口付近には保管しないでください。



- 冷凍庫には入れないでください。



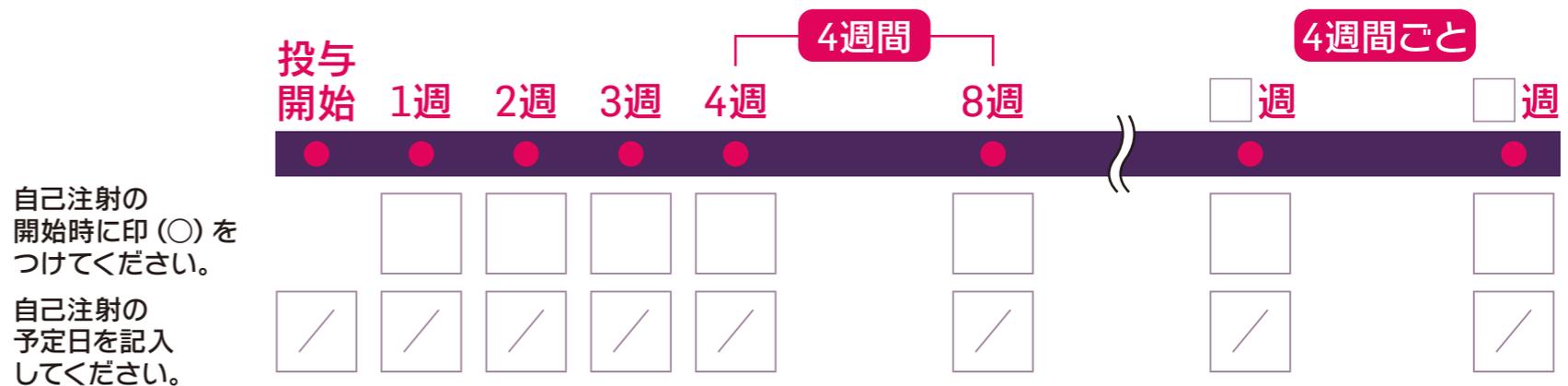
- 直射日光の当たるところに放置しないでください。



- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

スケジュール

コセンティクスの投与スケジュールは、初回、1週後、2週後、3週後、4週後に投与し、その後は4週間ごとに投与を続けていきます。



- 初回の投与は医療機関で行います。
- 初めての自己注射は、最初の注射から数えて何回目の注射なのか、主治医とご確認ください。
※5回目以降は、4週間ごとの投与になります。
- 体調がすぐれないときは無理に注射せず、主治医にご連絡ください。
※自己注射を始める前に、体調不良時の対処法・連絡方法など主治医と事前に相談しておきましょう。



※スケジュールと体調管理にあたっては、「自己注射用手帳」もご活用ください。

注射の準備

- ① 外箱を冷蔵庫から出します。
- ② 場所を確保します。
- ③ 手を洗い、準備マットを消毒します。



- 注射する15～30分前に冷蔵庫から取り出し、外箱に入れたまま、もしくは遮光した状態で室温に戻します。
- 明るく、平らな場所を選んで清潔にしてください。
- せっけんを使って手を丁寧に洗い、準備マットをアルコール消毒綿で消毒します。

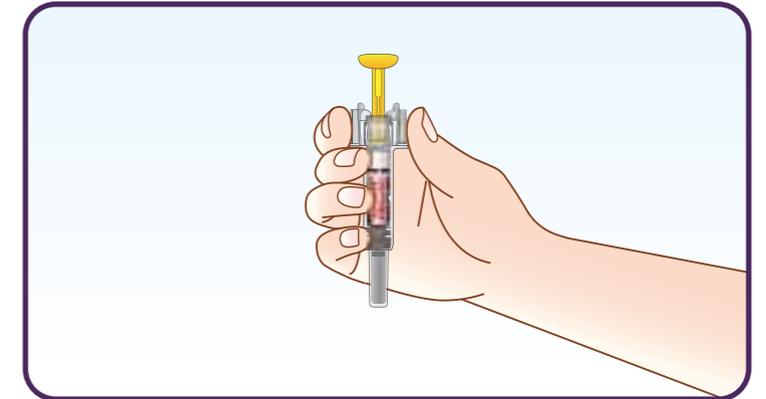
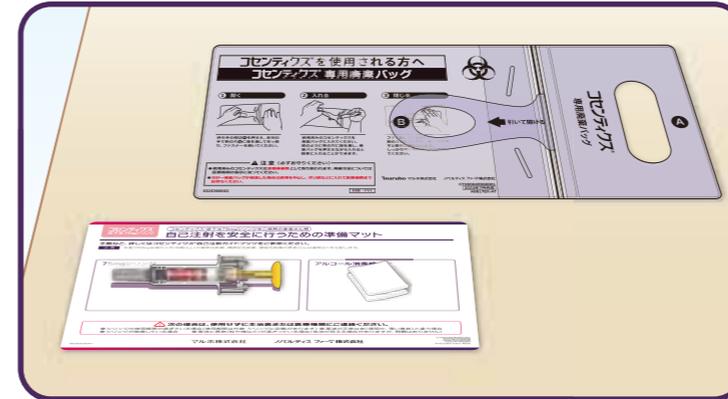
⚠ 注意

シリンジを冷蔵庫から出した後は、次の点にご注意ください。

- 電子レンジで温めたり、湯せんしたりしないでください。
- 振らないでください。
- 長時間放置しないでください。
- 直射日光の当たるところに放置しないでください。
- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

注射の準備

- ④ アルコール消毒綿で消毒した準備マットの上に注射に必要なものを並べます。
- ⑤ シリンジと薬液を確認します。



準備マットを置き、次のものを準備します。

- シリンジ(1本)
- アルコール消毒綿(2枚)
- 使用済み注射器入れ(廃棄バッグ)

⚠ 注意

シリンジの取り扱いは、次の点に注意してください。

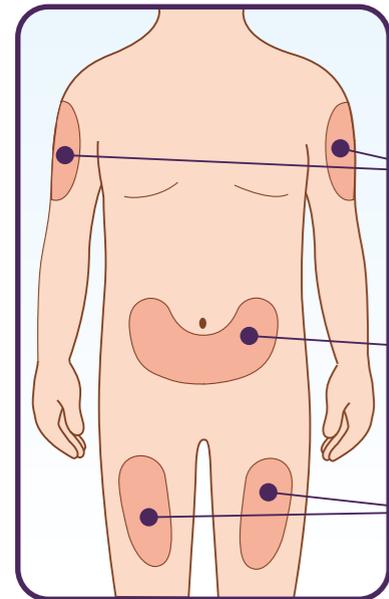
- 注射針カバーを外さないでください。
- プランジャーを押したり引いたりしないでください。
- シリンジの使用期限が過ぎている場合。
- 薬液が正常な色(透明か、薄い黄色)と違う場合。(使用期限は外箱・シリンジに記載あり)
- 薬液に異物(粒や塊など)が混ざっている場合。
- シリンジが破損している場合。
- 硬い面に落とした場合。
- 注射針カバーを外した後に落とした場合。

次の点を確認してください。

- シリンジの使用期限が過ぎていない
- シリンジが破損していない
- 薬液は変色していない(正常な色は透明か、薄い黄色)
- 薬液に異物が混ざっていない(気泡が見える場合がありますが問題はありません)
- 使用済みのシリンジではない(再使用しないでください)

注射する部位

- 注射する部位は、主治医または医療機関の指示に従ってください。



注射する部位は次の3つです。

上腕部の外側

※ご家族の方が注射される場合は上腕部の外側に注射することもできます。ただし、ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

腹部

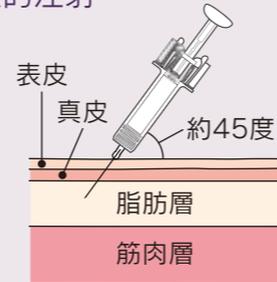
※へその周り5cmは避けてください。

大腿部(太もも)

※鼠径部や膝に近い部位、大腿部の外側、内側を避けてください。
※大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方は、この投与方法は推奨できません。

皮下注射とは？

皮膚の下にある脂肪層に注射します。たるみがあって柔らかい部位を選ぶと比較的注射がしやすくなります。



注意

- 注射する部位は毎回変更してください。(前回注射した部位から3cm以上離れた部位に注射してください)
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷跡がある部位、硬くなっている部位には注射しないでください。
- 「自己注射用手帳」に注射日と注射した部位を必ず記録してください。

注射の仕方

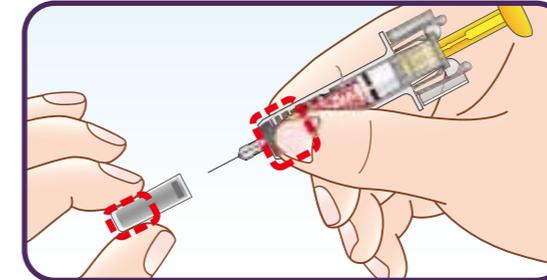
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

1 消毒します。



- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

2 注射針カバーを外します。

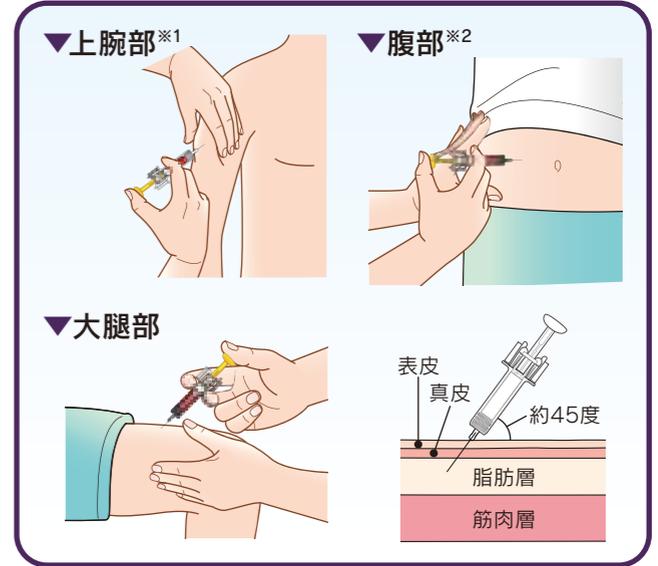


- 注射針カバーは固くはまっているため、で囲んだ注射針カバーの先の部分をしっかりと持って外してください。

注意

- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 注射針カバーを外す際には、注射針を曲げたり、手に刺したりしないようにご注意ください。
- 注射針カバーを外す際、プランジャーを押したり、引いたりしないでください。
- 注射針カバーを外した際、針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。
- 注射針カバーを外したら、すぐに注射を行ってください。
- 注射針部分のカバーには乾燥天然ゴム(ラテックス)が含まれているため、ラテックスに過敏な方はご注意ください。

3 注射針を刺します。



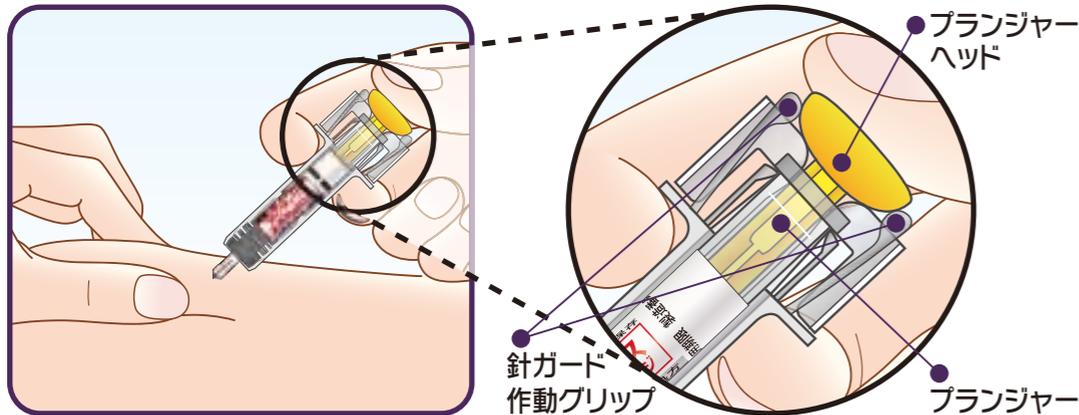
- 消毒した部位の皮膚を軽くつまみ、皮膚に対して注射針を斜め(約45度)に刺してください。確実に注入するために、針を根元までしっかりと刺し込んでください。

※1 ご家族の方が注射される場合は上腕部の外側に注射することもできます。ただし、ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

※2 へその周り5cmは避けてください。

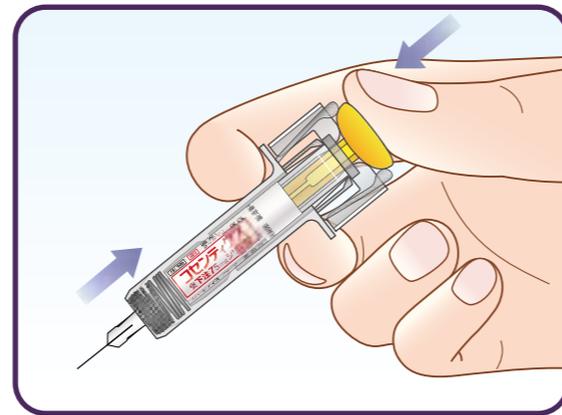
注射の仕方

4 プランジャーヘッドを押します。



- 人差し指と中指でシリンジをはさみ、親指をプランジャーヘッドに添えます。
- プランジャーヘッドが針ガード作動グリップの間に完全におさまるまで、ゆっくりと押しきります。
- 5秒間、シリンジを動かさず、押し続けたままにしてください。

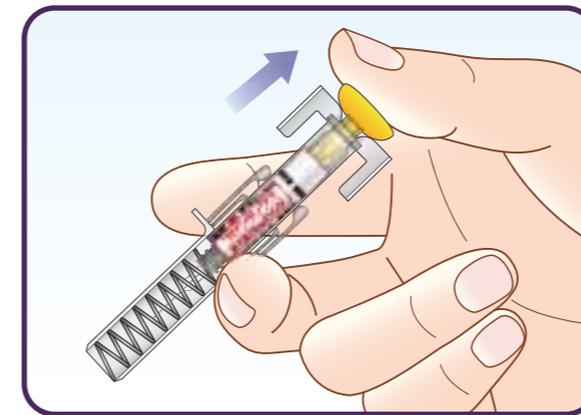
5 注射針を抜きます。



- プランジャーヘッドを押し続けたまま、注射部位から注射針をまっすぐ抜きます。

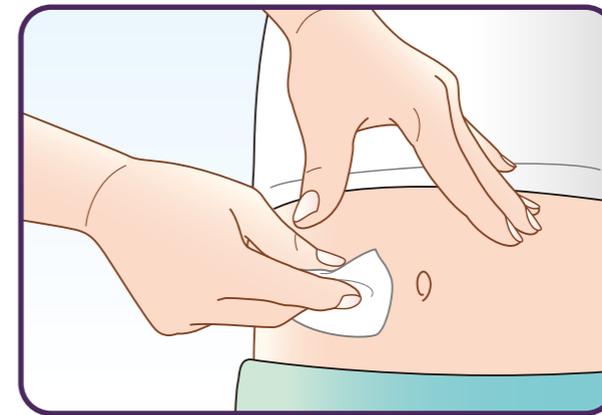
注射の仕方

6 プランジャーヘッドから指を離します。



- ゆっくりとプランジャーヘッドから指を離すと、針ガードが自動的にスライドして、注射針を覆います。

7 新しいアルコール消毒綿でおさえます。

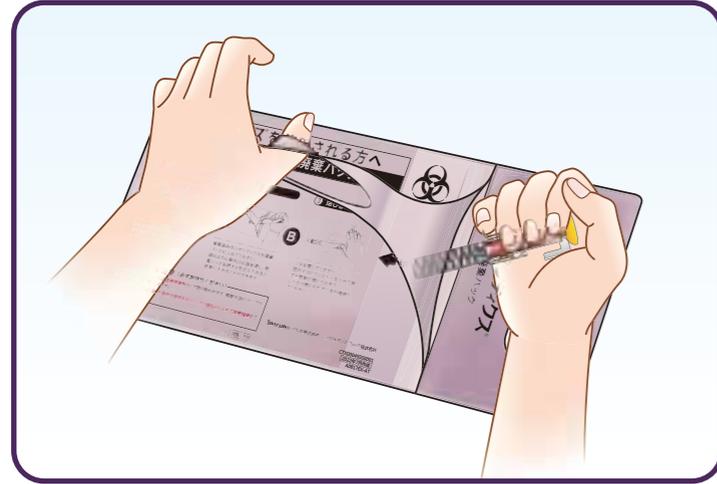


- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

⚠ 注意

- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

シリンジの廃棄



- 使用済みのシリンジを収納してください。

⚠ 注意

- 使用済みのシリンジは、速やかに廃棄バッグに収納してください。廃棄バッグがない場合はビンや缶などの固い容器(例えばインスタントコーヒーのガラスビン)などでも代用できます。
- 使用済みのシリンジは医療廃棄物として取り扱われます。廃棄の方法については医療機関の指示に従ってください。
- 使用済みのシリンジは再使用しないでください。
- 注射針カバー、アルコール消毒綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄バッグは、子どもの手の届かないところに保管してください。

注射後の症状や体調について

- 注射した後に、患者さんの様子がいつもと違う場合は、すぐに主治医または医療機関までご連絡ください。

- 風邪っぽい症状(咳、鼻水、のどの痛み、さむけ、熱、頭痛など)が続いている
- アレルギー症状(じんましん、かゆみ、皮膚や粘膜の腫れ、むくみなど)がある
- 息苦しさがある
- どうきがする
- からだがだるい
- 腹痛、下痢
- 便に粘液や血液が混じる
- 体重が減った、食欲がない
- 肛門が痛い、肛門から膿が出る
- ほぼ全身の皮膚が赤くなる
- フケやかさぶたのようなものができて、それがはがれ落ちる



自己注射用手帳への記録

- 注射が終わったら、「自己注射用手帳」に注射をした日付とそのときの様子を記入しましょう。
- 「自己注射用手帳」は主治医または医療機関にとっても必要になることもありますので、診察時にお持ちください。



「自己注射用手帳」には、次の項目を記入してください。

- 注射した日付
- 体温
- 注射した部位
- 注射した部位の痛みや腫れ
- その他の症状

よくあるご質問



Q 予定していた日に注射するのを忘れてしまいました。どうしたらよいですか？

A 注射予定日から5日以内の場合は、気がついた時点で注射をしてください。6日以上過ぎている場合は、主治医に連絡し指示に従ってください。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 予定日	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

5日以内であれば注射をしてください

6日過ぎたら主治医にご連絡ください

よくあるご質問



Q 何時ごろ注射するのがよいですか？

A 注射する時間に決まりはありませんが、忘れないように、一定の時間(例:入浴した後など)を決めておくとういでしょう。主治医の指示に従ってください。



Q 体調がすぐれないのですが、予定どおり注射して大丈夫ですか？

A かせ症状があつたり、体調がすぐれないときは無理に注射せず、主治医にご連絡ください。



Q 注射した部位が痛くなったり、かゆくなったりした場合、どうしたらよいですか？

A ご自身の判断で対処はせず、主治医にご連絡ください。



Q 注射する前にペンを落としたりしてインディケーターが作動してしまいました。どうしたらよいですか？

A そのペンは使用せず、新たなペンを準備し慌てずにペンの「注射の準備」(150mgペン:P7、300mgペン:P25)から手順に従って注射してください。また、そのことについて主治医に連絡してください。



Q 注射している際に薬液が漏れてしまいました。どうしたらよいですか？

A どれだけの薬液が漏れたか主治医に連絡し指示に従ってください。

よくあるご質問



Q ペンを注射部位に押し付けても、薬液の注入が始まりません。どうしたらよいですか？

A ペンが正しく押し付けられていないおそれがあります。ペンは注射部位に対して直角に当て、しっかりと押し付けてください。腹部に注射する場合、皮膚が柔らかすぎて針ガードを押し込めない場合があります。必要に応じて、皮膚をつまんで注射部位を固定してください。それでも薬液の注入が始まらない場合は、ペンが破損しているおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。



Q 注入が速いときと遅いときがあります。問題ないですか？

A 問題ありません。黄緑色(300mgペンは先端が灰色で黄緑色)のインディケーターが下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了しています。普段よりも注入時間が長いと感じられる場合にも、インディケーターが下まで完全に下がり、動きが止まるまでペンを押し当てたまま固定してください。



Q 注入完了時に「カチツ」という音が聞こえませんでした。問題ないですか？

A 「カチツ」という音が聞こえなかったときは、黄緑色(300mgペンは先端が灰色で黄緑色)のインディケーターの動きで注入完了が確認できます。インディケーターが下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了していますので、問題ありません。



Q ペンの薬液注入中、黄緑色(300mgペンは先端が灰色で黄緑色)のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出る前に、ペンを途中で抜いてしまいました。どうしたらよいですか？

A 途中で抜いてしまったペンは再び使用できませんので、廃棄バッグへ収納してください。また、規定の投与量がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。なお、残っている薬液が排出されますので、収納時には取り扱いにご注意ください。

よくあるご質問



Q 腕に注射した後、針が抜けません。どうしたらよいですか？

A 皮膚が傷つかないように注意しながら、ペンを軽く引っ張り抜針を試みてください。それでも抜けない場合は、そのまま注射した箇所を動かさないようにして主治医に連絡し、指示に従ってください。



Q 注射する前にシリンジを硬い面に落としたり、注射針カバーを外した後に落としたりしてしまった場合、どうしたらよいですか？

A そのシリンジは使用せず、主治医にご連絡ください。主治医と連絡がとれない場合で、ご自宅にコセンティクスをお持ちの場合は、後日投与する予定のシリンジを冷蔵庫から準備し、慌てずにシリンジの「注射の準備」(P43)から手順に従って注射してください。後日、主治医にご相談ください。



Q プランジャーヘッドをすべて押しきらずに、薬液が残ってしまいました。どうしたらよいですか？

A 皮膚からシリンジを離したとき、残液があった場合は主治医に連絡し指示に従ってください。なお、一度使用したシリンジは使用できませんので、廃棄バッグへ収納してください。



Q 注射した日にお風呂に入っても大丈夫ですか？

A 注射した日の入浴は可能ですが、注射直後は避けてください。

memo



A series of horizontal dotted lines for writing, starting from the top of the page and extending down to the footer area.



A series of horizontal dotted lines for writing, starting from the top of the page and extending down to the footer area.